

文化構想学部 1年生対象

複合文化論系

進級ガイダンス

2016年7月15日(金) 12:15~12:55

会場：36-382 教室



田中栄子 作

文化構想学部複合文化論系

論系室：33-808

e-mail：info@fukugo-waseda.jp

論系 HP：<http://www.fukugo-waseda.jp/>



【2016年度 論系プログラム】 ※番号は後掲の履修モデル番号と対応

言語文化プログラム

- | | |
|----------|---------------|
| 1.上野和昭ゼミ | ことばの歴史・ことばの地理 |
| 2.古屋昭弘ゼミ | ことばの表記・ことばの伝達 |
| 3.酒井智宏ゼミ | ことばの科学・ことばの哲学 |

文化人類学プログラム

- | | |
|-----------|---------------|
| 4.西村正雄ゼミ | <伝統>文化とその変動 |
| 5.寺崎秀一郎ゼミ | 文化ツーリズム論 |
| 6.國弘暁子ゼミ | 宗教への人類学的アプローチ |

異文化接触プログラム

- | | |
|------------|------------------|
| 7.坂上桂子ゼミ | アートと異文化コミュニケーション |
| 8.宮城徳也ゼミ | 文化変容論 |
| 9.高橋利枝ゼミ | メディア・コミュニケーション論 |
| 10.土田健次郎ゼミ | アジアの思想交流 |

感性文化プログラム

- | | |
|------------|----------------|
| 11.小林信之ゼミ | 芸術／性愛／死 |
| 12.陣野英則ゼミ | 日本の美意識 |
| 13.稲畑耕一郎ゼミ | 環境と文化（※） |
| 14.山田真茂留ゼミ | 集合的アイデンティティの諸相 |
| 15.高橋透ゼミ | 現代文明への視座 |

※13.稲畑耕一郎ゼミ（環境と文化）は2017年度のゼミ募集を行わない予定です。

【参考資料】

年次ごと論系ゼミ／ゼミ論文／卒業研究情報（文化構想学部ホームページ）

http://www.waseda.jp/flas/cms/students/seminar_thesis/

※現在掲載されているゼミ要項は2016年度の3年次生に向けたものです。

複合文化論系 履修モデル

※は取得することがとくに望ましい科目

【言語文化ゼミ】

履修モデル1 (上野和昭先生)	
モデルタイトル	言語文化ゼミ (ことばの歴史・ことばの地理)
学生像	日本語を対象とした言語学・言語文化論的研究に関心のある学生。
将来の活動フィールド	日本語学関係の学界(大学院進学)、教育界(国語・日本語)のほか、公務員(地方行政など)になる人、銀行や企業に就職する人もいる。
履修が望ましい外国語	特に指定しない。
ブリッジ科目	現代の日本語/日本語の文化史/ことばと社会/日本語学概論1・2/日本語史1・2/言語史の方法
ゼミ・演習科目	【ゼミ】言語文化ゼミ (ことばの歴史・ことばの地理) 【演習】現代日本語研究1・2/日本地域言語研究1・2

履修モデル2 (古屋昭弘先生)	
モデルタイトル	言語文化ゼミ (ことばの表記・ことばの伝達)
学生像	アジアの諸言語を対象とした言語学・言語文化論的研究を志す人。
将来の活動フィールド	言語関係の学界、教育界、出版・放送ほかジャーナリズム関係など。
履修が望ましい外国語	特に指定しない。
ブリッジ科目	言語史の方法/日本語の文化史/ヨーロッパのことばと文化/アジアのことばと文化 など
ゼミ・演習科目	【ゼミ】言語文化ゼミ (ことばの表記・ことばの発達) 【演習】言語と文化/多元文化論系演習(漢字文化) など

履修モデル3 (酒井智宏先生)	
モデルタイトル	言語文化ゼミ (ことばの科学・ことばの哲学)
学生像	日本語を含む世界の諸言語を対象とした理論言語学・言語哲学、ならびに言語学に関する科学哲学的研究を志す学生。
将来の活動フィールド	外国語・日本語関係の教員・研究者、出版・放送・ジャーナリズム関係など。
履修が望ましい外国語	特に指定しない。
ブリッジ科目	言語学入門/認知言語学入門/語用論入門/ヨーロッパのことばと文化/フランス語学概論
ゼミ・演習科目	【ゼミ】言語文化ゼミ (ことばの科学・ことばの哲学) 【演習】日常言語の論理学/文法の理論/言語と文化/意味と文脈

【文化人類学ゼミ】

履修モデル4 (西村正雄先生)	
モデルタイトル	文化人類学ゼミ (<伝統>文化とその変動)
学生像	問題意識、将来へのビジョンが明確な人。
将来の活動フィールド	国際機関(国連、国際援助機関)、NGO、NPO、大学院(海外を含む)で博士号取得の後、大学、研究所等での研究職、一般企業(特に金融関係が多い)。
履修が望ましい外国語	英語は必須。必ずしもメジャーな言語とは限らない。
ブリッジ科目	文化人類学の最前線1・2/文化人類学1・2/環境と人間1・2
ゼミ・演習科目	【ゼミ】文化人類学ゼミ (<伝統>文化とその変動) 【演習】フィールドワーク入門/文化人類学入門/開発人類学/医療人類学

履修モデル5 (寺崎秀一郎先生)	
モデルタイトル	文化人類学ゼミ(文化ツーリズム論)
学生像	①「文化資源」の現状と課題、その将来について関心がある学生。 ②地域文化の継承と発展に取り組む気概のある学生。 ③フィールドに出向き、現地の人びととの協力を志す学生。
将来の活動フィールド	大学院進学、旅行、観光、マスコミ、銀行、損保、食品、製薬、公務員等。つまり、進路としては、他ゼミ・他論系・他学部と比較して大きな差異はない。なお、3年生を対象に秋学期(10月頃)には就活を終えた4年生による就活ガイダンスを実施している。
履修が望ましい外国語	学術論文を読解できる英語は最低限必要。その他の外国語については、研究対象地域による。どんな地域で何をやりたいかということが第一義であり、外国語は当人の目的を達成するための手段であることを自覚の上、努力してほしい。
ブリッジ科目	文化人類学の最前線1・2/文化人類学1・2/国民国家と文化 (上記科目については1~2年次に履修することが望ましい)
ゼミ・演習科目	【ゼミ】文化人類学ゼミ(文化ツーリズム論) 【演習】民族文化論/物質文化論/植民地主義と人類学/資源・グローバリゼーション・その崩壊/開発人類学

履修モデル6 (國弘暁子先生)	
モデルタイトル	文化人類学ゼミ(宗教への人類学的アプローチ)
学生像	自分とは異なる考え方をする人の集団、そして彼らの生活習慣に関心を持つ学生
将来の活動フィールド	一般企業への就職、公務員、大学院進学、海外留学など
履修が望ましい外国語	英語は必須。その他、調査研究に必要となる言語。
ブリッジ科目	文化人類学の最前線1・2/文化人類学1・2/アジアのジェンダーとセクシュアリティ
ゼミ・演習科目	【ゼミ】文化人類学ゼミ(宗教への人類学的アプローチ) 【演習】文化人類学入門/フィールドワーク入門/コミュニティとナショナリズム/ジェンダー人類学

【異文化接触ゼミ】

履修モデル7 (坂上桂子先生)	
モデルタイトル	異文化接触ゼミ (アートと異文化コミュニケーション) 副題: 漢陽大学 (韓国) との共同ゼミを含む
学生像	(1) 都市とアート (パブリックアート、街並み、建築)、芸術と社会 (美術、視覚文化、デザイン、広告、ファッション、ミュージアム) の問題に関心のある学生。 (2) 国際交流 (とくに日韓の交流) に貢献したい学生。(漢陽大学・人文学部、慶熙大学・美術学部、成均館大学・建築学部との交流授業を秋学期にソウルで行います。) (3) 西洋、東洋、日本のどこかに片寄るのではなく、より広い視野から見渡し、考えることができるようになることを目指す学生。
将来の活動フィールド	* アートに関わる知識や異文化交流の体験を活かせる場。 * これまでの具体的就職先および進路: 広告会社、出版社、航空会社、商社、通信会社、銀行、保険会社、公務員、大学院進学 (海外を含む) など。
履修が望ましい外国語	自分が研究テーマとしたいトピックともっとも関係ある言語を習得していることが望ましい。 例: ウォーホルの広告美術 → 英語 カウディの建築 → スペイン語 パウハウスのデザイン → ドイツ語 未来派の絵画 → イタリア語 デザイン都市ソウルのメディア戦略 → 朝鮮語 ゴッホ、モネの夢見た日本 → フランス語 * 韓国の大学との交流授業をしますが、とくに韓国語の知識が必要というわけではありません。
ブリッジ科目	西洋近代美術/芸術論争の歴史/芸術と社会 (都市と美術) /美術史への招待 1・2 以上にあげた科目のほか、アート、イメージ、美術、視覚文化に関連する内容の講義科目を、地域・時代にかかわらず、なるべく幅広く履修しておくことが望ましい。
ゼミ・演習科目	【ゼミ】 異文化接触ゼミ (アートと異文化コミュニケーション) 【演習】 創造の交流点/世界のなかの日本のイメージ

履修モデル8 (宮城徳也先生)	
モデルタイトル	異文化接触ゼミ (文化変容論)
学生像	「異文化受容」, 「異文化交流」, 「文化変容」に興味を持ち、自分でテーマを決め、それをゼミの仲間たちにきちんと説明できるだけの調査・研究とプレゼンテーションをできるよう努力する人
将来の活動フィールド	卒業生は様々な業種に職を得ているので、どの分野に進んでも、大学で獲得した「学ぶ姿勢」を仕事に活かせる人材になってほしい
履修が望ましい外国語	必修の英語、基礎外国語を基盤に選択外国語等の履修によって、外国語への興味を持ち続けていることが望ましい。
ブリッジ科目	異文化受容と文学の変容/比較文学入門/ギリシャ・ローマ世界入門/ギリシャ・ローマの思想と文化
ゼミ・演習科目	【ゼミ】 異文化接触ゼミ (文化変容論) 【演習】 時代の刻印/主題系の研究/アートコミュニケーション/創造の交流点

履修モデル9 (高橋利枝先生)	
モデルタイトル	異文化接触ゼミ (メディア・コミュニケーション論) 副題: グローバリゼーションとメディア
学生像	グローバル・リテラシー (語学力、デジタル・リテラシー、コミュニケーション能力) に優れている人。異文化や他者を尊重し、相互理解に努め、よりよいグローバル社会の構築を共に目指す人。グローバル人材。
将来の活動フィールド	マスコミ (テレビ局、新聞、出版)、広告、商社、情報通信、メーカー、金融、大学院進学 (海外を含む)、国際機関
履修が望ましい外国語	特に指定しない。
ブリッジ科目	グローバリゼーションとメディア / 社会学概論 1・2 / 文化人類学の最前線 1・2 / 異文化の伝播と受容
ゼミ・演習科目	【ゼミ】 異文化接触ゼミ (メディア・コミュニケーション論) 【演習】 メディアと異文化コミュニケーション / 広告にみる異文化コミュニケーション / 若者、メディア、グローバリゼーション / 多文化社会論

履修モデル10 (土田健次郎先生)	
モデルタイトル	異文化接触ゼミ (アジアの思想交流)
学生像	アジア思想、あるいはアジアと他地域の思想的交流に関心のある学生
将来の活動フィールド	一部は大学院に進学、多くは社会に出て多様な分野に就職。たとえば会社員、高校教員、中には少数だが著述業もいる。
履修が望ましい外国語	特に指定しない。それぞれ履修している外国語を活かしてほしい。
ブリッジ科目	儒教概論 / 中国思想の世界 / 日本近世思想 / 伝統文化概論 2
ゼミ・演習科目	【ゼミ】 異文化接触ゼミ (アジアの思想交流) 【演習】 東アジアの思想世界

【感性文化ゼミ】

履修モデル11 (小林信之先生)	
モデルタイトル	感性文化ゼミ(現代の文化哲学)
学生像	当たり前の日常に目をむけ、耳を澄まし、その細部にふれる感触を味わうことのできる人。 性愛と死、他者と私、言語と感覚など、哲学的テーマに関心のある人。 芸術を初めとする、人間のクリエイティヴな領域に浸かりたい人。
将来の活動フィールド	哲学・美学・芸術学関係の大学院進学、出版・マスメディア、映像制作会社、中学高校教員、公務員ほか。
履修が望ましい外国語	英語以外の第二の外国語としてはドイツ語かフランス語が望ましい。
ブリッジ科目	※文化の哲学/感性の哲学/美学1/美学2/美の制度/死の制度
ゼミ・演習科目	【ゼミ】感性文化ゼミ (現代の文化哲学) 【演習】感性哲学/感性文化基礎論/生活環境感性論/視覚文化論/聴覚文化論

履修モデル12 (陣野英則先生)	
モデルタイトル	感性文化ゼミ (日本の美意識)
学生像	日本の文化 (とりわけ古典から近現代まで) に関心をもつ学生。日本の文化における感性のはたらき、あるいは美意識のありように関心をもつ学生。世界の中で日本の文化がどうとらえられているのかということに興味をもつ学生。
将来の活動フィールド	一般企業 (特に文化活動に関わる業種など)、出版・ジャーナリズム・広告関係、公務員、教職 (中学校・高等学校の国語科)、大学院進学および研究職 (日本の文化・文学・演劇など)
履修が望ましい外国語	特に指定しない。
ブリッジ科目	感性の哲学/美学1/美学2/物語文学の世界
ゼミ・演習科目	【ゼミ】感性文化ゼミ (日本の美意識) 【演習】感性文化基礎論/日本の美意識/日本古典文化の受容と変容

履修モデル13 (稲畑耕一郎先生)	
モデルタイトル	感性文化ゼミ (環境と文化)
学生像	まず元気な学生であればよい。次に諸外国の文化事象に関心のある学生、留学や仕事を含め世界に飛び出すことを考えている学生、そして文化を消費するだけでなく、新たに構想せんとする志を持った学生であれば、なお望ましい。
将来の活動フィールド	「人間 (じんかん) 到る所青山有り」だから、世間体ではなく、結局自分にあった仕事を見つけることが人生のベスト。
履修が望ましい外国語	何語でもよいから、自分の世界を広げるためには、自らの関心に応じた外国語能力を身につけてほしい。
ブリッジ科目	環境と人間/アジアのことばと文化/環境と考古学/日本民俗学など
ゼミ・演習科目	【ゼミ】感性文化ゼミ (環境と文化) 【演習】アジアにおける仮面文化/多元文化論系演習 (中国の文明史) /フィールドワーク入門など

履修モデル14 (山田真茂留先生)	
モデルタイトル	感性文化ゼミ (集合的アイデンティティの諸相)
学生像	文化と社会の関係に対して探究意欲がある学生。好奇心の強い人。社会科学系と人文学系にともに関心のある学生。あらゆる文化現象、社会現象に対して感性を研ぎ澄ませてアプローチしていきたい人。
将来の活動フィールド	メーカー・情報通信・マスコミ・金融などの一般企業、官公庁、教育・研究職など。
履修が望ましい外国語	とくに指定しないが、好きな外国語があるのが望ましいというのはいうまでもない。
ブリッジ科目	社会学概論1・2 / 社会学研究5 (集団・組織論1) / 社会学研究6 (集団・組織論2)
ゼミ・演習科目	【ゼミ】感性文化ゼミ (集合的アイデンティティの諸相) 【演習】集合的アイデンティティ論 / 若者、メディア、グローバリゼーション / サブカルチャーにみる異文化コミュニケーション / 感性哲学

履修モデル15 (高橋透先生)	
モデルタイトル	感性文化ゼミ (現代文明への視座)
学生像	基本的に文科系の領域であればどのような分野でもゼミに参加可能です。高橋は、テクノロジーの哲学を専攻していますが、教員の専攻分野に学生の関心分野を限る必要はありません。 本年度 (2016年度) のゼミ生のゼミ論テーマ (予定) 例: 広告論 (広告一般、広告とイメージ)、日本と海外文化比較、サブカルチャー論、ファッション論、食文化比較論など。
将来の活動フィールド	IT系企業、金融業、運輸業、アパレル関係、人材派遣企業、その他様々
履修が望ましい外国語	特に指定しない。
ブリッジ科目	各自関心のある分野を履修してください。
ゼミ・演習科目	【ゼミ】感性文化ゼミ (現代文明への視座) 【演習】各自関心のある分野を履修してください。